

動画配信最前線

短尺版の「Nドキュポケット」を
うまく本編に紐付けて、
さらに番組の底上げをしたいです日本テレビ 報道局
総合ニュースセンター
「NNNドキュメント」
プロデューサー

今村 忠 さん

日本テレビ 報道局
総合ニュースセンター
「NNNドキュメント」
ディレクター

斉藤 真也 さん

再生数が1,000万回超の
メガヒットも

—どのようなきっかけで「Nドキュポケット」というコンテンツを開始したのでしょうか。

今村 ■ 2020年1月に「NNNドキュメント」がちょうど番組放送50年を迎える節目だったので、何か大きなキャンペーンをやりたいと思ったときに、ショートドキュメントを毎日放送したらどうかみたいなことを計画しました。それが3〜5分の短尺版である「Nドキュポケット」でした。

配信版は最初、SNSでスタートし、その後YouTubeで2022年3月から開始しました。YouTubeでは24年1月現在、179本が配信されています。YouTubeでの総再生数は1億8,000万回を超え、100万回を超えるものが38本あります。さらに1,400万回超の「壁乗り越え挑戦続けた20年…マスク越しの闘病生活」(福井放送制作)をはじめ、1,000万回を超えるようなものも3本あります。10万回を超えると「バスる」と言いますが、1,000万回超えというのはモンスター級だと言われました。

—YouTubeでの配信を開始した理由は？

今村 ■ 今は他のエンターテインメントの分野でもYouTubeがやはりベースになっているので、ぜひそこで勝負したいという思いがありました。気持ち的には、草野球場からドーム球場に舞台を移すという意気込みでした。それと、やはり「NNNドキュメント」をもっと広く知ってほしいという強い思いがあり、YouTubeでの再生数増加に期待しました。

冒頭に山場を持ってきて
スピーディーな展開に

—「Nドキュポケット」を制作する上で心がけている点は？

斉藤 ■ スマホでの動画視聴は、面白くないと平均8秒で飽きられると言われているので、必ず頭に山場を持ってくるよう構成し、間を作らずにスピーディーに展開していく形にしています。また、手軽なダウンスイジングではなくて、新たにナレーターを入れスーパーも入れ直すなど、きちんと編集をし直しています。あと、スマホで見るのに最適なMA(音声編集)も施しています。この短尺版はテレビとまったく違う作り方をしているのです。僕と今村さんは編集マン出身で、その経験がここで生きていていると思います。

さらに、視聴者が元の番組を見たときの感想と一緒にするように、伝えるべきところは外さないことも常に心がけています。その結果、元番組の制作者から「私たちの言いたいことが全部詰め込まれていました」と、とても喜ばれることが多くなってきました。

—NNN系列局の評判はどうでしょうか？

今村 ■ 最初は「うちの25分の番組を短くするとはとんでもない」みたいなことを言う方もいましたけど、制作を続けていくうちに「うちのもぜひ短くしてくれ」と手を挙げてくれるケースが多くなりました。また、放送と違って配信ではコメント欄があり、取材対象者に自分たちがやってきたことへの感想を直に書きこんでもらえるので、彼らがとても喜んでいる

という話もよく聞きます。

さらに、再放送や講演の依頼、続編の制作など、新しい展開が生まれているケースもあります。われわれ日本テレビの報道局の中でも、最近では優秀なコンテンツだと認められてきたという実感があります。

—今後のYouTubeでの展開予定を教えてください。

今村 ■ これだけの再生数を稼ぎ出しているコンテンツですので、「NNNドキュメント」本編にうまく紐付けて、もっと番組の底上げをしたいです。これが一番大きな目標です。

斉藤 ■ 「Nドキュポケット」をさらに短くした1分版の“YouTubeショート”に挑戦したいです。そこにリンクを貼って「Nドキュポケット」に飛んでもらうなど、もっと低い年齢層の人たちに見てもらえるような展開をしていきたいです。

「壁乗り越え挑戦続けた20年…
マスク越しの闘病生活」

生まれながらの難病と闘う竜連也さん。家族や仲間を支えられ、自らの可能性を信じて、いくつもの壁を乗り越えてきた連也さん20年の記録。4分17秒。

／ NNNドキュメント
『拝啓連也様 マスク
越しの闘病20年』制
作局：福井放送

from
YouTube

ドキュメンタリーはYouTubeでも人気の高いコンテンツの一つですが、短尺版シリーズは新たなニーズを切り拓きました。同時に、30分を超える長尺の作品も、視聴者の満足度の高いものはおすすめされやすいメリットがあります。フルバージョンの配信もぜひお試しください。